

平成29年度

弘前大学男女共同参画推進室 事業報告書



弘前大学男女共同参画推進室事業報告書

目次

ごあいさつ	2
弘前大学の男女共同参画の現状	5
実施体制	7
実施事業の内容と成果	
1. システム改革	
女性研究者の応募・採用促進	8
研究リーダー力向上支援	9
女性研究者懇談会	10
女性活躍推進異業種交流会「hirosaki smart project」	11
2. 両立支援	
子育て・介護中の研究者への研究支援員配置	12
託児利用料補助（学会参加時、休日勤務時、病児・病後児）	12
子育て中の職員を対象とした駐車許可証拡充発行試行	12
3. 次世代育成	
女子学生による理系女子進路相談会	13
児童生徒を対象とした裾野拡大	13
女性研究者パネル・ポスター展	14
4. 意識啓発・情報発信	
男女共同参画トップセミナー	16
さんかくカフェ	16
「大学等における男女共同参画推進セミナー」等への職員派遣	17
学生を対象とした研修会「LGBTについて知ろう、話そう 第2弾」	18
北東北国立3大学連携推進会議男女共同参画シンポジウム	19
あおもり女性活躍推進協議会	19
ホームページ、さんかくつうしん	20
資料 平成29年度 男女共同参画推進室 主な事業一覧	21

ごあいさつ



多様な教育研究環境を目指して

国立大学法人 弘前大学 学長
佐藤 敬

高等教育機関としての在るべき姿を考える時、最も重要な属性の一つは多様性であることを繰り返し述べてきました。

大学においては、多様な専門家による多様な教育内容を提供することはもちろん、キャンパスの環境そのものも重要な要素であり、全国から、そして海外から集まる学生と職員が創り出す多様な環境の中で過ごすことは私たち全員にとって貴重なことです。そして、大学であればこそ、このようなグローバル化をはじめとした多様性を目指す取組において地域を先導する存在でなければなりません。

男女共同参画推進がその一環に過ぎないことは間違いありませんが、一方で、男女共同参画推進に特化した取組もまだまだ必要です。平成22年度から3年間の文部科学省女性研究者研究活動支援事業「つがるネットワーク！地域でつなぐ女性人才」と、平成28年度からの文部科学省科学技術人材育成補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）による岩手大学を中心とした「ダイバーシティ実現で北東北の未来を先導」などの取組を通して、本学の男女共同参画は大いに進化してきたと言ってよいと思います。いまだ十分とは言えないまでも、教員採用に際してのポジティブ・アクションをはじめ、様々な取組の成果として、実際に女性研究者の比率は上昇し、男女共同参画の視点での職場環境の整備も以前よりは進んできました。

今後は、これらに関して後退することがあってはならないのは確かですが、単に男女共同参画の視点にとどまらず、より一層、働きやすい職場の実現を目指すことが必要であり、加えて、もう少し広い視点でのダイバーシティの推進を見据えた対応が必要な時がきていると思います。特に後者に関しては、現状では実績も手許にない分野はありますが、まずは長期的な視点に立って議論を始めることが必要と認識しています。

今後も多様な教育研究環境を目指して、大学を挙げた取組を推進していきたいと思っています。



理事（総務担当・社会連携担当）
加藤 健

本年2月、平成22年から男女共同参画を担当されてきた大河原隆前理事から引き継ぎました。

平成29年度は、弘前大学の男女共同参画のさらなる推進に向けて、2年目となるダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）事業を中心に、さまざまな取組がなされた1年間でした。弘前大学男女共同参画推進基金により引き続き教員公募面接時の女性候補者への交通費支援が行われ、支援を受けた方々が着任されました。また、プロモーションメンター制度やダイバーシティレポート制度が試行制度としてではありますが、新設されました。平成29年8月には、青森県内の高等教育機関や研究機関、民間企業等との情報・意見交換や各機関が実施する事業への相互参加等の連携により、本学のみならず地域のダイバーシティ研究環境整備を目指すことを目的とした「あおりダイバーシティ研究環境推進ネットワーク」が設立されました。平成30年1月に岩手大学で開かれたダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）の外部評価委員会でも、これらの取組を高く評価していただいたと聞いています。

本年度は、男女共同参画推進室の副室長が2人体制に拡充され、総務部長が新たに副室長に就任したことや、人事課が中心となり弘前大学女性活躍推進研修として弘前市女性活躍推進異業種交流会「hirosaki smart project」に女性職員5名を派遣したこと、さらに、事務系女性管理職懇談会、事務系女性職員を対象としたキャリアデザイン研修、働き方研修等が開催されたことも、男女共同参画推進の取組が学内に浸透してきたことの現われとして特長的であったと振り返っています。

本学学長のリーダーシップのもと、性別にかかわらず学びやすく働きやすい弘前大学の実現に向けた取組が継続、発展していくことと思います。今後とも、学内外の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



男女共同参画推進室長
日景 弥生

男女共同参画推進室は平成21年10月に設置され、その趣旨に基づき、性別にかかわらず全ての職員や学生を視野に入れた取組を行っております。今年度の事業は、大きく次の3つに分類されます。1つ目は、昨年度採択された文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)「ダイバーシティ研究環境実現で北東北の未来を先導」(代表機関は岩手大学)の取組の本格化、2つ目は他機関等との連携の強化、3つ目は事業対象の拡大です。

1つ目の事業が2年目に入りました。この事業の目的は、女性研究者の増加に効果的なポジティブ・アクション制度の構築やライフイベントとの両立支援のシームレス化等の実施により、北東北の女性研究者と上位職増加の加速的スパイラルの実現を目指すものです。そのための新たな取組として、「ダイバーシティレポート制度(試行)構築」「プロモーションメンター制度(試行)構築」「教員業績評価へのライフイベント等の配慮実施」などを実施しています。はじめの取組は、教員選考過程におけるアンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)を探るために、選考委員会の委員または当推進室員が選考過程をレポートする制度です。次の取組は、上位職階登用を目的に、その昇進を阻んでいる個人的・組織的要因を把握し、昇進のための相談・助言等を行う制度です。その次の取組は、教員評価に出産・育児・介護に係る休業を取得した者や、育児・介護のための短時間勤務制度の適用があった者について、必要な配慮を行うことを位置づけた制度で、3つの取組とも実施されています。

2つ目は、今年度新たに実施した他機関等との連携としては、「あおりダイバーシティ研究環境推進ネットワーク」が、本学を含む15機関(青森県内の10大学、1高専、1公設試験研究機関、3企業)で設立されました。加えて、青森県が設置した働く意欲のある女性が働き続け、その能力を十分に発揮できる環境整備を関係団体が連携・協力して進めるための「あおり女性活躍推進協議会」に参画しました。

3つ目は、当推進室の今までの事業は、上記補助金の対象が女性研究者に限定されていることもあり、概ね研究者支援を行って参りました。しかし、今年度は人事課が主催した「事務系女性管理職懇談会」「事務系女性職員を対象としたキャリアデザイン研修」「働き方研修」等にも参画し、今までの学生を対象とする事業も含め、本学の全ての学生や職員を対象とを拡大しています。

その他、新たに実施された「女性研究者懇談会」の開催をはじめ、昨年度からの事業も全て継続しており、「女性研究者基盤整備等スタートアップ経費支援制度構築」「教員公募時の女性候補者に対する面接に係る交通費支援」「病児病後児保育費用補助」「介護に関する休暇・休業相談会開催」「管理職セミナー開催」「男女共同参画関連講義の開講」「女性活躍推進異業種交流会 hirosaki smart projectへの参加」「子育て・介護中の研究者支援制度」「子育て中の職員の駐車許可証発行」「オープンキャンパスでの理系女子進路相談会開催」など、利用者や参加者から高い評価を得ています。

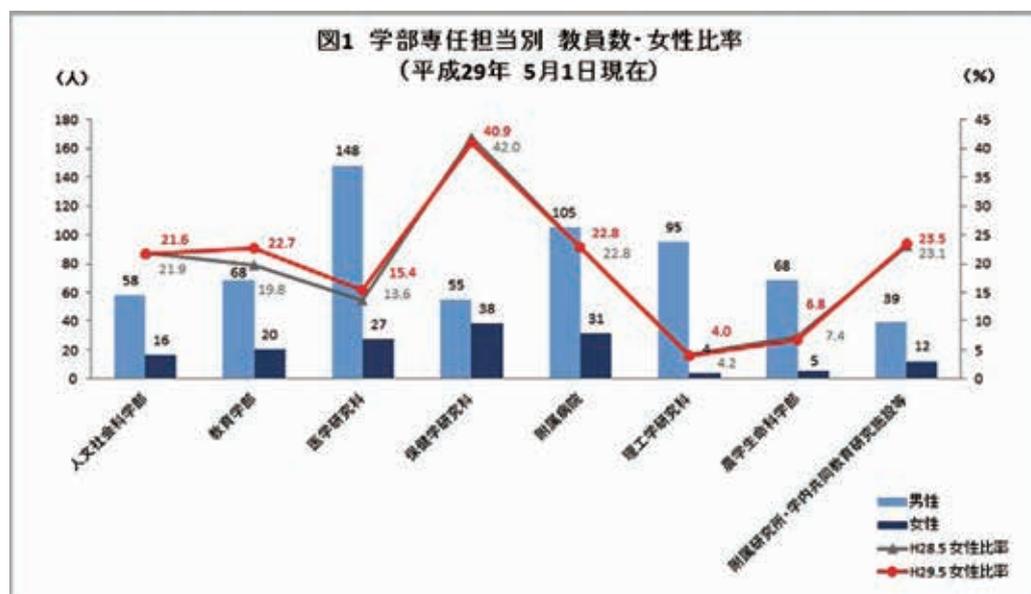
男女共同参画推進室は、これからもすべての人が学びやすく働きやすい環境づくりと、より活力ある大学に進化するための提案を行って参ります。引き続き、職員、学生、地域の皆さまからのご意見やご助言をよろしくご意見申し上げます。

弘前大学の男女共同参画の現状

本学教職員総数は1,952名（他に学長・理事・監事等）である（平成29年5月1日現在）。そのうち女性は914名（46.8%）である。大学教員は789名、うち女性は153名（19.4%）、附属学校園教員は98名、うち女性は53名（54.1%）である。事務職員・技術職員等（医学部附属病院を除く）は291名、うち女性は93名（32.0%）、医学部附属病院の事務職員・技術職員等は774名、うち女性615名（79.5%）である。

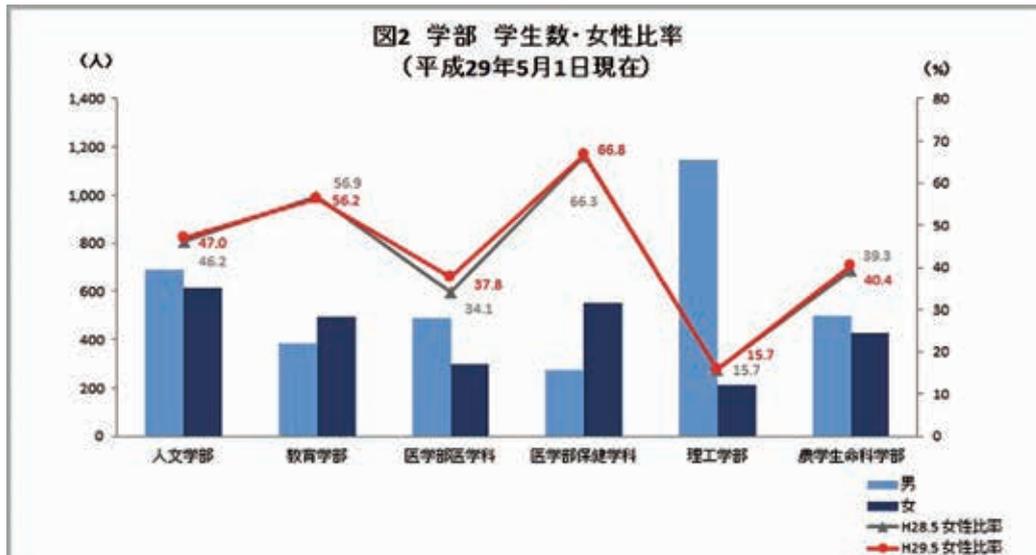
2016年5月1日時点と比較すると、大学教員で女性比率が0.6%増加し、附属学校園教員と事務職員・技術職員等（医学部附属病院を除く）は横ばい、附属病院の事務職員・技術職員等は0.4%減少した。さらに、管理職に占める女性比率は、役員（非常勤除く）16.7%、事務系職員9.7%である。

大学教員における女性比率を昨年度と比較し、増加したのは教育学部（+2.9%）、医学研究科（+1.8%）、附属研究所等（+0.4%）である。附属病院は横ばい、その他は減少し、減少率が大きい順に保健学研究科（-1.1%）、農学生命科学部（-0.6%）、人文社会科学部（-0.3%）、理工学研究科（-0.2%）である。教員全体でみると、女性比率19.4%で、昨年度より0.6%増加した。



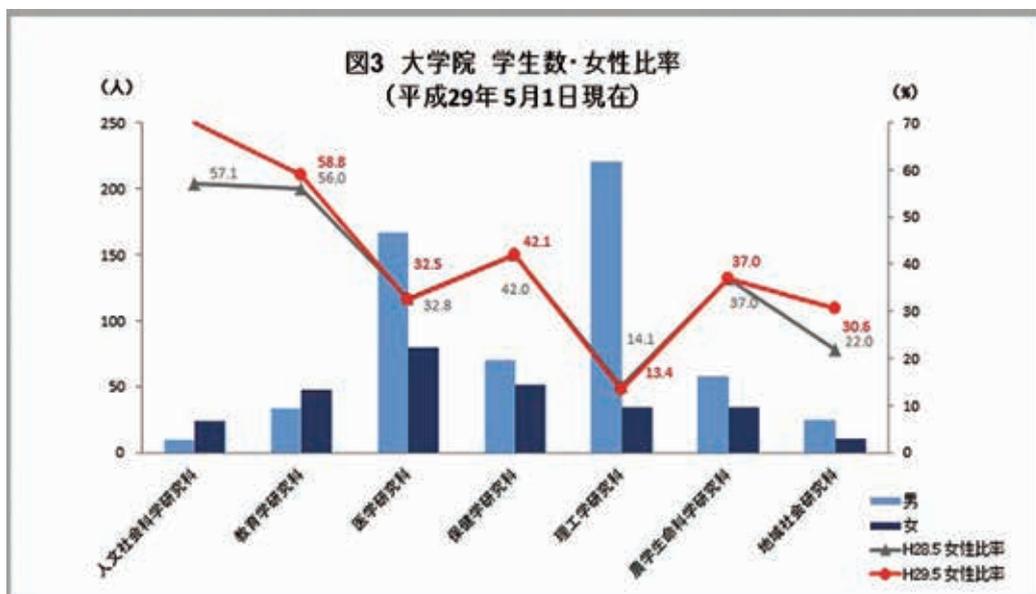
学部学生の総数5,995名のうち女性は2,508名（41.8%）である。学部ごとにみると、女性比率の高い順に、医学部保健学科553名（66.8%）、教育学部493名（56.2%）、人文社会科学部613名（47.0%）、農学生命科学部427名（40.4%）、医学部医学科298名（37.8%）、理工学部213名（15.7%）となる。

昨年度と比較すると、女性比率は全体で0.3%増加した。学部ごとでは、医学部医学科（+3.7%）、農学生命科学部（+1.2%）、人文社会科学部（+0.8%）、医学部保健学科（+0.5%）で増加し、理工学部は横ばい、教育学部（-0.7%）で減少した。



大学院生の総数は863名、そのうち女性は281名（32.6%）である。学部学生に比べて女性比率は低くなっている。研究科ごとにみると、女性比率の高い順に、人文社会科学研究科24名（70.1%）、教育学研究科47名（58.8%）、保健学研究科51名（42.1%）、農学生命科学研究科34名（37.0%）、医学研究科80名（32.5%）、地域社会研究科11名（30.6%）、理工学研究科34名（13.4%）となる。

昨年度と比較すると、女性比率は全体で0.8%増加している。研究科ごとでは、人文社会科学研究科（+13.0%）、地域社会研究科（+8.6）、教育学研究科（+2.8%）、保健学研究科（+0.1%）で増加し、農学生命科学研究科は横ばい、医学研究科（-0.3%）、理工学研究科（-0.7%）で減少した。



実施体制

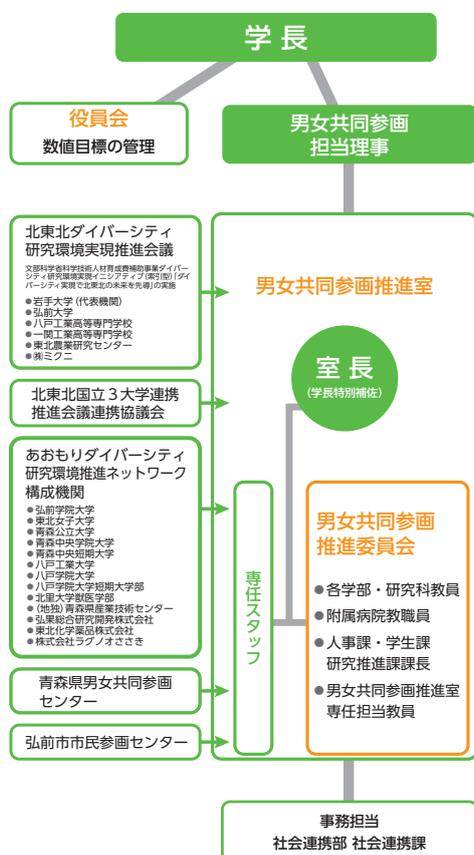
役員会が重要事項を審議・決定し、男女共同参画推進室長（学長特別補佐と兼務）が委員長を務める男女共同参画推進委員会が具体的な事業を企画・審議した。男女共同参画推進委員会は、各学部・研究科、医学部附属病院、総務部、総務部人事課、学務部学生課、研究推進部研究推進課の18名の室員から構成される。男女共同参画推進室は、学長直属の組織として弘前大学管理運営規則に定められ、専任担当教員と事務補佐員（社会連携部社会連携課）の事務補佐員を置き、各種事業を実施した。

平成29年7月には、副室長を2人にしたほか、従来、各課の課長補佐が務めていたポストに課長が就き、体制が拡充された。

以上の学内の実施体制に加えて、平成28年度に引き続き、岩手大学を代表機関とする文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）の実施組織である北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議、北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議運営委員会に参加した。

平成29年8月、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）の参加機関として本学が中心となり「あおりダイバーシティ研究環境推進ネットワーク」が新設された。ネットワークは情報・意見交換や各機関が実施する事業への相互参加等の連携を通じて、本学のみならず地域のダイバーシティ研究環境整備を推進することを目的とし、青森県内の15機関（10大学、1工業高等専門学校、1公設試験研究機関（4部門13研究所）、3企業）で構成される。次頁以降に報告する本学が中心となり実施した本年度の事業（北東北女性研究者研究・交流フェア、女性研究者を研究代表者とする共同研究支援事業、研究リーダー力向上支援セミナー等）に加入機関からも参加があった。

弘前大学における男女共同参画推進体制



平成29年度 男女共同参画推進委員会 名簿

役職等	氏名	所属等
室長	日景 弥生	学長特別補佐 教育学部教授
副室長	藤崎 浩幸	農学生命科学部教授
	三浦 新	総務部長
	小磯 重隆	キャリアセンター准教授 (～平成29年6月末日)
室員	近藤 史	人文社会科学部准教授
	安川 あけみ	教育学部教授
	柿崎 育子	医学研究科准教授
	北宮 千秋	保健学研究科教授
	小島 佳也	医学部附属病院臨床検査技師長
	銭谷 勉	理工学研究科教授
	土井 雅之	人文社会科学部講師
	松本 大	教育学部准教授
	斉藤 まなぶ	医学部附属病院講師
	谷田貝 亜紀代	理工学研究科准教授
	牛田 千里	農学生命科学部准教授
	山下 梓	男女共同参画推進室助教
	庄司 聡	総務部人事課長
	土井 正人	学務部学生課長
	三上 徹	研究推進部研究推進課長

実施事業の内容と成果

1. システム改革

○女性研究者の応募・採用促進

女性教員の応募・採用促進の取組として、昨年度、弘前大学男女共同参画推進基金により構築した女性教員基盤整備等スタートアップ経費支援と面接時交通費支援を継続するとともに、新たにダイバーシティレポート制度（試行）とプロモーションメンター制度（試行）を新設した。

女性教員採用促進事業（女性教員基盤整備等スタートアップ経費支援）は、女性限定公募により新たに採用した場合に研究環境の基盤整備等にかかるスタートアップ経費（女性教員1人につき50万円）を支援することにより、女性教員の応募促進と採用・在職比率の向上を図るものである。女性限定公募は複数件実施されたが、結果的に新規採用ではなかったことから、平成29年度は本経費の申請はなかった。

女性教員採用促進事業（面接時交通費支援）は、教員公募面接時の女性候補者に対する交通費を支援するもので、本年度、海外からの応募者も視野に入れ、支援の上限額を従来の3万円から30万円に拡充した。4学部・研究科からの申請に基づき5名の女性候補者について交通費を支援し、うち3名の採用が決定した。

ダイバーシティレポート制度（試行）は、すべての教員公募（女性限定公募を除く）を対象に、選考の各段階について男女共同参画の観点からレポートするもので、全学教員人事委員会（平成29年11月14日開催）で了承された。レポート実施者は、公募実施部局が、ダイバーシティオフィサー（学系長・領域長・選考委員長等）かダイバーシティオブザーバー（男女共同参画推進室長が任命する男女共同参画推進室員（性別・分野を問わない））から選択し、所定の様式に基づき、男女共同参画推進室長に報告する。また、本制度では、選考委員長とレポート実施者は無意識の偏見に関する研修を受けることが必須化された。研修資料の1つとしてダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）代表機関の岩手大学とともに研究者採用ガイド「ダイバーシティの観点からの研究者採用を実施するために」を作成し、学内外で活用された。なお、本制度構築に当たっては、岩手大学と沖縄科学技術大学院大学の制度を参考にした。

プロモーションメンター制度（試行）は、本学の女性研究者が教育・研究・管理運営等にかかる現状や課題等を相談できる体制を整備することにより、本学における女性研究者の上位職への登用促進を図ることを目的とするもので、男女共同参画推進委員会（平成29年10月4日）で了承された。ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）の女性研究者を研究代表者とする共同研究支援事業に代表者として採択された本学の教員を対象に、理事と所属する学部・研究科の長の2人をプロモーションメンターとして配置するものである。プロモーションメンターは、教育、研究、管理運営等に係るマネジメント力向上に向けた助言を行うとともに、研究環境の現状を把握し、当該女性研究者が昇任または上位職に就くためのシステム改革を積極的に行う。平成30年3月に5名の女性研究者に対し、プロモーションメンターによる面談が行われた。



○研究リーダー力向上支援

女性研究者の研究リーダー力向上支援の取組として、北東北女性研究者研究・交流フェア、女性研究者を研究代表者とする共同研究支援事業、研究リーダー力向上支援セミナーを行った。

北東北女性研究者研究・交流フェア

実施日時：平成29年9月15日 12時30分～16時30分

会 場：弘前駅前公共施設ヒロロスクエア

参加者：97名

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）の一環として、地域における女性研究者の研究活動活性化や、女性研究者間や企業等の相互交流支援を図るため、北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議とともに「北東北女性研究者研究・交流フェア2017」を主催した。

第1部のポスターセッションでは、共同研究紹介21件、一般研究紹介19件、機関紹介15件の発表があり、続く第2部のロールモデル講演会では、松八重一代先生（東北大学大学院環境科学研究科教授）と青山千春先生（東京海洋大学海洋資源エネルギー学部門准教授）から講演をいただいた。

参加者アンケート（回答数51）では、第1部について回答者の8割以上から「大変有意義だった」「有意義だった」と回答をいただき、第2部については9割以上から「大変有意義だった」「有意義だった」との評価を受けた。「科研費で共同研究を始めたところだったので、分野の異なる研究についての発表を含め、共同研究における役割分担のあり方について参考になった」や「他の研究内容を知ることによって、女性研究者の新たな刺激を得る機会になった」等の感想があった。



女性研究者を研究代表者とする共同研究支援

支援期間：平成29年7月3日～平成30年3月31日

被支援者：代表者5名（新規1件、継続4件） 共同研究者19名（うち女性10名、男性9名）

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）の一環として、平成29年度も引き続き、本学を含む連携機関の女性研究者による共同研究を支援した。本事業は、本学を含む連携機関や北東北地域の女性研究者の研究力・リーダー力・マネジメント力の向上を図り、上位職登用の促進につなげるとともに、当該領域・分野の研究の深化に寄与することを目的とするものである。

平成29年度は、教育学部、医学研究科、保健学研究科、農学生命科学部の5名の研究代表者を含む本学の教員のべ24名を支援した。本事業による研究概要や成果は、上記の北東北女性研究者研究・交流フェア、岩手大学で開かれた同フェア（10月21～22日）やシンポジウム「北東北の創生とダイバーシティ」

(平成30年1月10日)、八戸工業高等専門学校で開かれた研究交流会、各研究者が所属する学会等で発表された。

研究リーダー力向上支援セミナー

実施日時：平成29年12月15日 14時20分～16時

会 場：弘前大学創立50周年記念会館 岩木ホール

参加者：18名

文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）の一環として、女性研究者の研究リーダー力向上を支援する目的からセミナーを開催した。

平成28年度にお招きし好評だった富田欣和先生（慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科講師）を講師にお迎えし、「組織内オープンイノベーションを促進するプロジェクトマネジメント」と題して、組織内の多様性を活かすための組織内オープンイノベーション促進のヒント、教員・研究員・バックオフィスメンバーの人材育成の構造、チームメンバーの創造性を高めるクリエイティブ・コンフィデンスの醸成等について講演をいただいた。

参加者アンケート（回答者17名）では、全員が「大変参考になった」「参考になった」と評価し、「社内でも研修を行ったりしているが、内容が今回のものは最先端と感じた」「実践に役立ちそう」「分野を問わずに参考になる話だったと感じた」等の感想があった。

なお、セミナーの動画を、本学や連携機関、あおりダイバーシティ研究環境推進ネットワークの関係者が見られるよう後日配信した。



○女性研究者懇談会

日 時：平成29年12月13日 12時～13時

会 場：弘前大学創立50周年記念会館 会議室1

参加者：20名（うち女性研究者12名、
学長・理事等3名、陪席5名）

さまざまな分野や職階、ライフステージ等の本学の女性研究者間のネットワーク構築を支援するとともに、女性研究者の生の声を聴き今後の事業にいかしていくことを目的として、初めて、女性研究者懇談会を開催した。女性研究者12名のほか、



佐藤敬学長、大河原隆理事、日景弥生男女共同参画推進室長等が参加した。「本学の子育て・介護に係る支援策が着任の決断の後押しになった」「支援策について積極的に情報発信を行うことが女性教員の応募促進につながるのではないか」「所属学科の上位職階に女性がいないためキャリアパスがみえず不安」等の発言があり、ランチをとりながら活発に情報・意見交換が行われた。

参加者からは、「学内の他分野の女性研究者と面識や交流をもててよかった」「先輩教員からアドバイスをもらえて勇気づけられた」等の感想があった。



○女性活躍推進異業種交流会「hirosaki smart project」

平成28年度から参画している「hirosaki smart project」に、平成29年度も引き続き参画した。hirosaki smart projectは、政府の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、弘前市と損保ジャパン日本興亜株式会社が連携・協力し、女性活躍推進を目的として設立された異業種交流会事業の総称で、平成29年度は本学を含む弘前市に拠点を置く約20の企業・団体等が参画した。6月、9月、11月、2月に開かれた交流会に業務の一環として事務系女性職員5名が派遣され、第2回（9月）は本学が幹事機関として企画や運営に携わった。

第1回

日 時：平成29年6月21日 17時30分～19時00分
会 場：弘前市民参画センター 3階 グループ活動室
内 容：講義「女性労働の現状と課題」

第2回

日 時：平成29年9月20日 17時30分～19時30分
会 場：弘前市民参画センター 3階 グループ活動室
内 容：講義・グループディスカッション
「女性活躍・ダイバーシティ推進と unconscious bias（無意識の偏見）、多様性ある私の職場の実現に向けて」

第3回

日 時：平成29年11月22日 17時30分～19時30分
会 場：弘前市民参画センター 3階 グループ活動室
内 容：講義・グループディスカッション
「株式会社ラグノオささきの女性社員を取り巻く歴史と企業風土」

第4回

日 時：平成30年2月6日 16時20分～19時30分
会 場：ヒロロ4階市民文化交流館ホール
内 容：講義「接客の最終兵器『笑顔』に挑む」

2. 両立支援

○子育て・介護中の研究者への研究支援員配置

支援期間：平成29年5月17日～平成30年3月31日

被支援者：8名（すべて女性、子育て事由6、介護事由2）

平成24年度から、ライフイベント（出産・育児・介護）により研究活動やワーク・ライフ・バランスの維持が極めて困難な研究者を支援する目的から、研究支援員（本学学生）を配置している。これまでに本制度の支援を受けた研究者は、論文発表や学会発表、科学研究費女性事業の採択等の成果を上げてきた。

平成29年度は、人文社会科学部、医学研究科、保健学研究科、医学部附属病院、理工学研究科の8名の女性研究者に対して13名の研究支援員を約2000時間配置した。

○託児利用料補助（学会参加時、休日勤務時、病児・病後児）

円滑で効率的な業務とワーク・ライフ・バランス支援のため、本学研究者が学会参加時に託児サービスを利用する場合、それから、職員が休日に勤務を命じられたため託児サービスを利用する場合や業務のため病児・病後児保育施設を利用した場合の利用料補助を実施した。休日勤務時の支援は、平成28年度まで大学入試センター試験時のみを対象としていたものから拡充して試行したもので、病児・病後児保育については、平成28年度から試行を継続して実施した。

学会参加時の託児費用補助 実績

利用者：1件

休日勤務時の託児利用料補助 実績

利用者：1件

病児・病後児保育費用補助 実績

利用者：52件

○子育て中の職員を対象とした駐車許可証拡充発行試行

支援期間：平成29年4月1日～平成30年3月31日

被支援者：21名（うち女性11名、男性11名）

本学文京町地区では、原則として、自宅と勤務先の直線距離が2 km以上の場合に限って駐車許可証が発行される。しかし、これを満たさない職員から、業務と子育ての両立のために車を使わざるを得ない状況のため支援を求める声が男女共同参画推進室に寄せられたことから、平成27年度から平成29年度まで、施設環境部整備計画課の理解によりこれらの職員を対象に試行的に駐車許可証発行が行われた。利用した職員からは好評で、「学内に駐車できるようになったことで仕事に割ける時間も多くなり、経済的にも、時間的にも、精神的にも大きな助けになった」「保育園の送り迎えに要する時間が大幅な削減となり、業務に専念できる時間を確保できた」等の感想があった。

約2年間の試行期間について検証した結果、本事業は、平成30年度からは本格的に実施されることとなった。

3. 次世代育成

○女子学生による理系女子進路相談会

日 時：平成29年8月8日 10～15時

会 場：弘前大学総合教育棟 ロビー・ホール

来 場 者：54名（女子高校生49名、保護者・引率者5名）

協力学生：14名（教育学部2名、理工学部7名、農学生命科学部5名）

理系女性の裾野拡大を図る目的から、オープンキャンパスにあわせて「女子学生による理系女子のための進路相談会」を実施した。理系進学を考えている女子高校生の進路にかんする疑問や不安等について、各学部から推薦された理工学研究科、農学生命科学部、教育学部の女子学生が相談に応じた。

来場者アンケート（回答者51名）では、全員が「参考になった」「まあまあ参考になった」と評価し、「理系か文系か迷っていたけれど、話を聴いて理系に進んでみたいと思った」「文理で迷っているけれど、理系も楽しそうだと思ったので、ちゃんと勉強したい」等の感想があった。

また、相談員として参加した学生からは「進路選択に悩んでいる生徒にとって、役立つ場であると思った」「気持ちに寄り添って話すことができたし、やりがいを感じた」との感想があり、協力学生に本事業に携わることで充実感を得てもらうこともできた。



○児童生徒を対象とした裾野拡大

児童生徒を対象とした裾野拡大の取組として、女子小中学生を対象とした理科実験教室、女子高校生を対象とした科学イベントを支援した。

女子小中学生対象理科実験教室

「実験ガールズ in SUMMER !! 2017」

日 時：平成29年7月22日

10時～12時（小学生対象）

13時30分～15時30分（中学生対象）

会 場：青森市男女共同参画プラザ研修室

参加者：9名



女子児童生徒が理科実験の楽しさを経験することによって理系分野に関心を持つきっかけとなる場を提供し、理系女子の裾野拡大を図ることを目的として、小中学生対象理科実験教室「実験ガールズ in SUMMER !! 2017」（青森市男女共同参画プラザ主催）に協力した。本学女子学生が講師を務め、小学生向けにはブーメランの仕組みを説明しながらブーメランづくりが、中学生向けには光の仕組みを説明しながら分光器づくりが行われた。当日は、男女共同参画推進室から貸し出した本学女性研究者の研究等に関するポスターが会場に展示された。



科学イベント「女子高生工学系キャリアサポート」

日 時：平成29年12月9～10日

会 場：弘前大学理工学部校舎

参加者：30名（うち女子高校生25名、引率者5名）

女子児童生徒が理科実験の楽しさを経験することによって理系分野に関心を持つきっかけとなる場を提供し、理系女子の裾野拡大を図ることを目的として、科学イベント「女子高生工学系キャリアサポート」（鳥飼宏之准教授（本学理工学研究科）主催）に協賛した。

鳥飼宏之准教授が講師を務め、折り紙の燃焼実験と折り紙を用いた新しい技術の創造をテーマにグループワークが行われた。

事業終了後に実施したアンケートでは、「今回のキャリアサポート事業は楽しかったですか」という質問に対して88%が「大変楽しかった」、12%が「楽しかった」、「将来、エンジニアとして働くのも面白そうだと感じましたか」という質問にたいして36%が「強く感じた」、40%が「感じた」、24%が「少し感じた」と高く評価した。「工学が何なのかよくわかっていなかったが、今回の活動で工学部に行こうという気持ちが強くなった」「今回の活動で、工学系で女性がとても大事に思われていることがよく分かった。また、実験そしてその結果から、原因を科学的に考えることの楽しさを理解することができた」等の感想があった。

○女性研究者パネル・ポスター展

総合文化祭、青森県男女共同参画センター（アピオあおもり）でのアピオあおもり秋まつり、弘前市等が主催する市民ボランティア交流まつりにおいて、弘前大学の女性研究者の研究を紹介するパネル・ポスター「弘前大学で活躍する女性研究者たち」を展示した。

学内外の多様な来場者に対して本学の女性研究者による研究や男女共同参画推進の取組について発信することができた。来場者からは「女性研究者の頑張りを知って嬉しく思う」「女性研究者増につながるような弘前大学の取組にも期待している」等の感想が寄せられた。



第17回弘前大学総合文化祭

日にち：平成29年10月28～29日

会場：弘前大学創立50周年記念会館 ロビー

来場者：95名

アピオあおもり秋まつり

日時：平成29年11月11日 9時30分～15時30分

会場：青森県男女共同参画センター

来場者：97名

第7回市民ボランティア交流まつり

日時：平成30年2月12日 10時30分～14時30分

会場：ヒロロスクエア

来場者：98名

4. 意識啓発・情報発信

○男女共同参画トップセミナー

「ダイバーシティ教育環境の基盤づくりとしてのポジティブ・アクションー岩手大学の実践から」

日 時：平成29年 5月22日 13時15分～14時45分

会 場：弘前大学創立50周年記念会館 岩木ホール

参加者：44名（うち本学幹部職員34名、その他職員7名、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）連携機関3名）

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）の一環として、管理職を対象に女性教員の採用・昇任等をはじめとするダイバーシティ研究環境推進に関する意識啓発を図る目的から、セミナーを開催した。

講師には、船崎健一先生（岩手大学理工学部長）をお招きし、岩手大学における女性教員の採用や上位職登用等のポジティブアクション方策や成果・課題等について実践を踏まえてご講演をいただいた。

参加者アンケート（回答者40名）では、「大変参考になった」（19名）、「参考になった」（19名）、「思った内容と違った」（「良い意味で」と加筆有）1名と、好評であった。また、「ポジティブアクションの意味が理解できた」や「One-Up公募制度とスタートアップ経費は、本学としても非常に参考になるのではないか」、「戦略性ある模範事例を紹介いただき、大変勉強になった」、「事務系職員だが、今後の職員採用に向けて多様な人材確保が急務であり、参考にさせていただけると感じた」等の感想があった。

なお、セミナーの動画を、本学や連携機関、あおりダイバーシティ研究環境推進ネットワークの関係者が見られるよう後日配信した。



○さんかくカフェ

平成25年度から、性別にかかわらず働きやすく学びやすい弘前大学の実現を目指して、男女共同参画推進に関心のある職員や学生が意見・情報交換を行う場を提供するとともに、参加者同士のネットワークの構築支援を目的として「さんかくカフェ」を開催してきた。平成29年度は、下記のとおり開催した。第1回・2回いずれの会も、昨年度実施して好評だったことから、前半に人事課担当者から学内の子育て・介護等に係る最新の休暇・休業制度について説明を



いただいた。第2回には、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）代表機関の佐藤淑恵ワーク・ライフ・バランス/キャリア相談員にも参加いただいた。参加者アンケートでは、第1回（回答者18名）、第2回（回答者22名）とも「大変有意義だった」「やや有意義だった」と高く評価された。「弘前大学で勤務している人にとって、子育てや介護の悩みなどを解消することのできる機会だったと思う」「取得できる制度や権利について知る機会にはほぼなく、当事者になって初めていろいろなことが分かり、良かった」「他の職種の方と話ができておもしろかった」等の感想があった。



第1回「子育て・介護中の両立支援策」

日 時：平成29年7月20日 16～17時
会 場：弘前大学学生会館スコーラム2階
参加者：20名

第2回「ワーク・ライフ・バランスとキャリア形成」

日 時：平成29年11月7日 17～18時
会 場：医学部附属病院第2病棟地下1階 看護部研修室
参加者：26名

○「大学等における男女共同参画推進セミナー」等への職員派遣

ダイバーシティ研究環境推進や男女共同参画推進のため職員の意識啓発を目的として、男女共同参画推進室員を学外でのシンポジウムや研修等に派遣した。派遣された室員は、男女共同参画推進委員会において参加報告を行い、学内でのいっそうの意識啓発を図った。

派遣先：山形大学管理職セミナー「多様な人材を活用するための人事選考のあり方」

（平成29年6月28日、山形大学小白川キャンパス事務局棟第1会議室）

参加者：山下梓室員

報 告：男女共同参画推進委員会（平成29年7月7日開催）

派遣先：第15回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム

（平成29年10月14日、東京大学本郷キャンパス医学部教育研究棟14階 鉄門記念講堂）

参加者：山下梓室員

報 告：男女共同参画推進委員会（平成29年11月8日開催）

派遣先：平成29年度「大学における男女共同参画推進セミナー」

（平成29年11月30日～12月1日、国立女性教育会館・筑波大学東京キャンパス文京校舎）

参加者：藤崎浩幸副室長、土井正人学生課長

報 告：男女共同参画推進委員会（平成30年2月7日開催）

派遣先：日本女子大学現代女性キャリア研究所主催シンポジウム
「なぜ女性は管理職になりたがらないのか」
(平成29年12月16日、日本女子大学(目白キャンパス)新泉山会館1F大会議室)

参加者：山下梓室員

報告：男女共同参画推進委員会(平成30年2月7日)

派遣先：平成29年度科学技術人材育成費補助事業フォーラム
「研究力強化に向けた女性研究者の活躍促進」
(平成30年3月2日、ベルサール神田2Fイベントホール)

参加者：日景弥生室長、山下梓室員

報告：男女共同参画推進委員会(平成30年3月7日開催)

派遣先：人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会主催シンポジウム
「人文社会系学協会における男女共同参画をめざして」
(平成30年3月31日、お茶の水女子大学共通講義棟2号館201室)

参加者：日景弥生室長、山下梓室員

報告：男女共同参画推進委員会(平成30年4月開催予定)

○学生を対象とした研修会「LGBTについて知ろう、話そう 第2弾」

日時：平成30年1月19日 16時～17時30分

会場：弘前大学創立50周年記念会館2階 会議室2

参加者：15名(うち学生9名、職員6名)

本学の学生がセクシュアリティの多様性について学び、考える機会を提供するとともに学生間の男女共同参画の意識啓発を図ることを目的として、研修会を開催した。平成28年度にお招きし好評だった加藤悠二先生(NPO法人虹色ダイバーシティ)を講師にお迎えし、講義とディスカッションが行われた。ディスカッションでは、大学のハラスメント防止規定や学籍簿上の性別や通称名の取扱、LGBTサークル、困りごと(トイレ、呼称、名簿の在り方、授業で得られる情報を含む)等について情報や意見交換が行われた。

参加者アンケート(回答者13名)では、全員が「大変参考になった」や「参考になった」と評価した。「残りの学生生活の中で私に何ができるか考えるよいきっかけになった」「また機会があれば参加したい」「セクシュアリティについては友人に話しても軽く受け取られがちだが、今日は話せる機会があり嬉しかった」等の感想があった。



○北東北国立3大学連携推進会議連携協議会男女共同参画シンポジウム

日時：平成30年1月17日 13時30分～16時

会場：秋田大学地方創生センター 2号館 大セミナー室

平成22年から本学、秋田大学、岩手大学が毎年持ち回りで北東北国立3大学連携推進会議連携協議会男女共同参画シンポジウムを開催してきたが、平成29年度は秋田大学がホストとなり「これからもずっと輝き続けるために パートⅡ～多様性を活かす職場環境を考える」をテーマに開催された。前半は、文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課の中野理美課長が特別講演「男女共同参画推進に向けた大学への期待」を、稲葉カヨ先生（京都大学理事・副学長）が基調講演「男女共同参画推進の現状と課題—京都大学での女性研究者支援を通じて—」をされた。

後半は、本学、秋田大学、岩手大学から、女性研究者支援の取組を含む多様性に関する各大学の取組について報告があり、本学からは日景弥生学長特別補佐・男女共同参画推進室長が報告した。続くパネルディスカッション「多様性を活かす職場環境を考える」では、本学の大河原隆理事、秋田大学の近藤克幸理事、岩手大学の菅原悦子理事がパネリストを、秋田大学の山名裕子男女共同参画推進室長がコーディネーターを務められ、多様な構成員の現状に即した特長的な取組や組織のトップが果たす役割等について情報・意見交換が行われた。最後に、本学の大河原隆理事が次回開催校あいさつをした。

なお、同日、3大学の男女共同参画推進室長による平成29年度北東北大学連携男女共同参画推進連絡会議が開かれ、今後の連携継続や平成28年度に3大学の学長が行った「北東北国立3大学男女共同参画推進のための共同宣言2016」に引き続き取り組んでいくこと等が確認された。

本学構成員のいっそうの意識啓発を図るため、本シンポジウムに参加した室員が、男女共同参画推進委員会（平成30年2月7日開催）において参加報告を行った。



○あおもり女性活躍推進協議会

平成29年7月、女性活躍推進法に基づき、青森県が中心となり「あおもり女性活躍推進協議会」が設置された。本協議会は、「働く意欲のある女性が働き続け、その能力を十分に発揮できる環境整備を関係団体が連携・協力して進める」ことを目的とするもので、本学を含む青森県内の19機関からなる。協議会には日景弥生男女共同参画推進室長が、幹事会（協議会の円滑な運営や目的達成に向けた具体的な検討を行うため構成団体の実務担当者等で構成されるもの）には山下梓室員が委員として参加し、本学の男女共同参画推進の取組に関する情報発信や、他の構成機関との情報・意見交換を行った。

○ホームページ、さんかくつうしん

学内外への情報発信とそれを通じた男女共同参画推進の意識啓発を図る目的から、平成29年度も随時男女共同参画推進室ホームページを更新するとともに男女共同参画推進室ニュースレター「さんかくつうしん」を9月と3月に発行した。また、岩手大学が編集するダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）についても6月、9月、12月、3月に本学の全職員に配付した。

2017年9月発行

弘前大学男女共同参画推進室

さんかくつうしん

Newsletter Vol.17

あおもりダイバーシティ研究環境推進ネットワークが設立されました

8月9日、あおもりダイバーシティ研究環境推進ネットワークが設立されました。このネットワークは、県内各大学の大学、高等専門学校、研究機関等が連携して当地域における女性研究者の研究活動支援等を行うことを目的とするもので、設立会議では、本ネットワークの目的に、本ネットワークが文部科学省科学技術人材育成補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）に参加機関として参画することについて了解されました。

ネットワークでは、今後、女性研究者の研究活動支援や育成、岩手大学とその取組にかかわる課題共有、課題解決に向けた情報・意見交換、種別各機関が実施する事業にかかわる情報提供と相互参加などを行ってまいります。

あおもりダイバーシティ研究環境推進ネットワーク 加入機関

弘前大学 事業女子大学 青森県立大学
 岩手県立大学 岩手県立看護大学 八戸工業高等専門学校
 八戸工業大学 八戸学院大学 八戸学院大学短期大学部
 北奥大学 岩手県立看護大学 岩手県立看護センター
 弘前大学附属看護福祉学部 弘前大学附属看護福祉センター
 株式会社ラジオニクス 弘前大学

室員が交代しました

前室長の退任に伴い、7月1日付で男女共同参画推進室員がかわりました。新室長は情報通信学教授（看護生命科学専攻）と三浦新総務部長の2人体制となり、総務・人事・財務企画課の各課長候補にかかわり、学生・学事・研究推進課の各課長が室員となりました。新室長の室員名簿は男女共同参画推進室ウェブサイトをご覧ください。

新室長ごあいさつ

専門は歴史民俗で、農村女性の社会参加に多くの関心があります。男女共同参画推進室でも、これまでご支援を承りましたので、引き続き応援を賜りますようお願いいたします。よろしくお願いいたします。

新室長 三浦 新

今後、新室長に就任しました。ご縁を承知いたします。この任では、勉強ではないと思っております。新室長という責を負うことになりました。弘前大学が抱える課題に共感する大学として、男女共同参画推進室というプラットフォームを構築し、集まっている大学を支援して、協力しながら力添えをさせていただきます。

新室長 三浦 新

2018年3月発行

弘前大学男女共同参画推進室

さんかくつうしん

Newsletter Vol.18

北東北女性研究者 研究・交流フェア2017をホストしました

平成29年9月15日、弘前駅前公共施設ゼロスクエアにおいて、弘前大学と北東北ダイバーシティ研究環境推進協議会の主催により北東北女性研究者 研究・交流フェア2017が開催されました。昨年同様弘前大学を会場として本学が参加する文部科学省科学技術人材育成補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）「ダイバーシティ実現で北東北の未来を先導」の一環として行われたものです。

第1部では、女性研究者を研究代表者とする共同研究についてスピーチで発表が行われ、続いて、ポスターセッションでは共同研究紹介19件、一般研究紹介19件、機関紹介15件の出展がありました。第2部のパネルディスカッションでは、弘前大学一ノ宮先生（東北大学大学院情報科学科教授）と高山洋香先生（東北大学大学院海洋資源エネルギー学部門教授）から自身の研究やプライベートを語られたご講演をいただきました。

100名近くの参加があり、参加者アンケート（回収数11）では、第1部について「以前以上に「大変有意義だった」「有意義だった」、第2部については「9月15日から「大変有意義だった」「有意義だった」との評価で好評でした。」「種別別の研究交流は有意義」「可研究性、人生の先導として勇気を与えてくれた」等の感想も寄せられました。

シンポジウム「北東北の創性とダイバーシティ」が開催されました

1月10日、岩手大学復興新会館ホールにおいて、岩手大学と北東北ダイバーシティ研究環境推進協議会の主催によるシンポジウム「北東北の創性とダイバーシティ」が開催されました。「ダイバーシティ実現で北東北の未来を先導」の一環として、女性研究者支援を含むダイバーシティ推進、男女共同参画の推進や連携のあるべき姿等について考える場として企画されたものです。

前々では、学術振興会文部科学省科学技術・学術政策課人材育成課課長 辻野 隆彦（当時）による特別講演「研究環境のダイバーシティ実現に向けた一科学技術・学術分野における女性の活躍促進」、日高乃里子氏（株式会社人材財源ダイバーシティ推進委員会）による基調講演「個人におけるダイバーシティ意識の醸成に向けた取組」、岩手大学の種別研究支援、研究活動による事業紹介「ダイバーシティ実現で北東北の未来を先導」が行われました。

後半は、本学の学術推進課長のほか、岩手大学長や八戸工業高等専門学校長をはじめとする連携大学機関の代表者、協議会事務局「智」の名を冠し、「北のディスカッション」北東北のダイバーシティ実現を目指して」が行われました。各機関の取組の発表やリーダークエストとしてのごコメント等について意見がかわりました。最後に、ダイバーシティ実現するための共同宣言を推進すること等ご自身の研究環境を定めたら事務局より「ダイバーシティ研究環境実現のための共同宣言」が岩手大学長から読み上げられました。（共同宣言文はこちら <https://gender.iwate-u.ac.jp/diversity/807> からご覧ください。）

なお、会場口には、あおもりダイバーシティ研究環境推進ネットワーク紹介や女性研究者を代表とする共同研究紹介等のポスターも掲げられ、本学からは種別研究支援研究科（保健学研究科）がポスター発表されました。

資料 平成29年度 男女共同参画推進室 主な事業一覧

月	事業内容	会議
4月	1日 平成29年度女性教員採用促進事業 (女性教員基盤整備等スタートアップ経費支援) 開始 病児・病後児保育利用料補助(試行)申請受付開始 10日 学会参加時の託児利用料補助申請受付開始	6日 第1回男女共同参画推進室委員会 28日 男女共同参画推進室運営会議
5月	17日 子育て・介護中の研究者への研究支援員配置開始 22日 男女共同参画トップセミナー開催	12日 第2回男女共同参画推進室委員会 18日 第6回北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議運営委員会(於:岩手大学) 26日 男女共同参画推進室運営会議
6月	21日 平成29年度第1回女性活躍推進異業種交流会参加	2日 第3回男女共同参画推進室委員会 第3回北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議(於:岩手大学) 30日 男女共同参画推進室運営会議
7月	3日 平成29年度女性研究者を研究代表者とする共同 研究支援事業開始 20日 平成29年度第1回さんかくカフェ開催 22日 女子小中学生対象理科実験教室(共催事業)開催 27日 休日勤務時託児利用料補助(試行)利用登録受付開始	7日 第4回男女共同参画推進室委員会 12日 第1回あおり女性活躍推進協議会 (於:青森市) 28日 男女共同参画推進室運営会議
8月	8日 女子学生による理系女子進路相談会開催 9日 あおりダイバーシティ研究環境推進ネット ワーク設立会議開催	4日 第5回男女共同参画推進室委員会 10日 第5回北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議運営委員会(紙上)
9月	5日 「さんかくつうしん」Vol.17発行 15日 北東北女性研究者研究・交流フェア開催 20日 第2回女性活躍推進異業種交流会参加	29日 男女共同参画推進室運営会議
10月	4日 プロモーションメンター制度(試行)開始 28~29日 弘前大学総合文化祭での女性研究者パネル 展実施	4日 第6回男女共同参画推進室委員会 10日 あおり女性活躍推進協議会第1回幹事 会(於:青森市) 25日 男女共同参画推進室運営会議
11月	7日 第2回さんかくカフェ開催 11日 アピオあおり秋まつりでの女性研究者パネル展実施 14日 ダイバーシティレポート制度(試行)開始 22日 第3回女性活躍推進異業種交流会参加	8日 第7回男女共同参画推進室委員会 28日 第6回北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議運営委員会(於:岩手大学) 29日 男女共同参画推進室運営会議
12月	9~10日 科学イベント「女子高生工学系キャリアサ ポート」(協賛事業)開催 13日 女性研究者懇談会開催 15日 研究リーダー力向上支援セミナー開催	6日 第8回男女共同参画推進室委員会 20日 あおり女性活躍推進協議会第2回幹事 会(於:青森市)
1月	10日 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (牽引型)シンポジウム「北東北の創生とダイ バーシティ」開催(於:岩手大学) 17日 北東北国立3大学連携推進会議男女共同参画シ ンポジウム(於:秋田大学) 19日 学生を対象とした研修会開催	10日 第3回北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議(於:岩手大学) 17日 北東北大学連携男女共同参画推進連絡会 議 29日 ダイバーシティ研究環境実現イニシア ティブ(牽引型)アドバイザリーボード (於:岩手大学) 31日 男女共同参画推進室運営会議
2月	11日 第7回市民ボランティア交流まつりでの女性研 究者パネル展実施 21日 第4回女性活躍推進異業種交流会参加	5日 第7回北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議運営委員会(於:岩手大学) 7日 第9回男女共同参画推進室委員会 28日 男女共同参画推進室運営会議
3月	「さんかくつうしん」Vol.18発行	7日 第10回男女共同参画推進室委員会 29日 男女共同参画推進室運営会議

平成29年度
弘前大学男女共同参画推進室
事業報告書

発行 平成30年 3月31日

発行所 弘前大学男女共同参画推進室

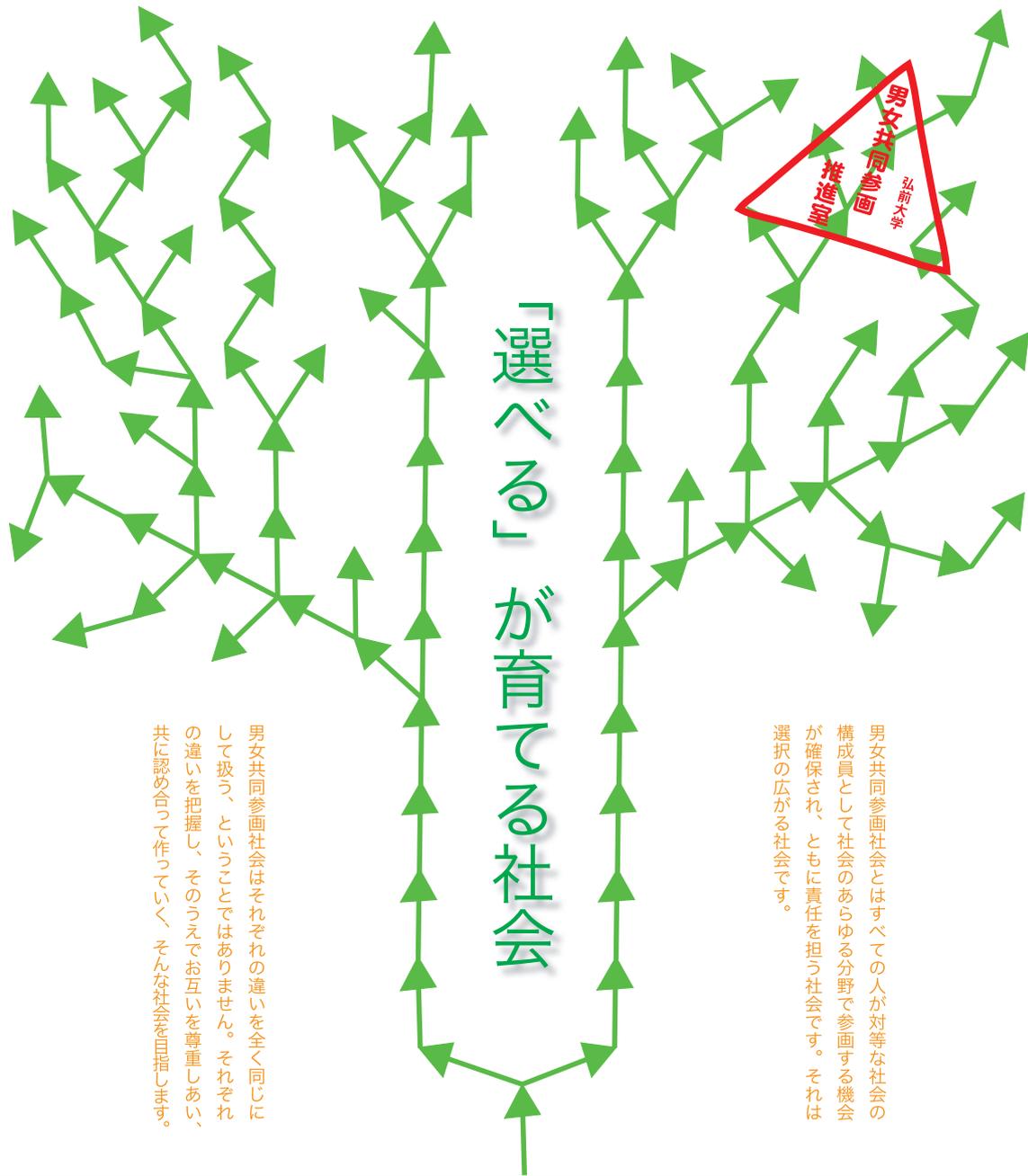
〒036-8560 青森県弘前市文京町 1

電話 0172(39)3888

FAX 0172(39)3889

Email : equality@hirosaki-u.ac.jp

URL : <http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/equality/>



「選べる」が育てる社会

男女共同参画社会とはすべての人が対等な社会の構成員として社会のあらゆる分野で参画する機会が確保され、ともに責任を担う社会です。それは選択の広がる社会です。

男女共同参画社会はそれぞれの違いを全く同じにして扱う、ということではありません。それぞれの違いを把握し、そのうえでお互いを尊重しあい、共に認め合って作っていく、そんな社会を目指します。

弘前大学男女共同参画推進室

〒036-8560 青森県弘前市文京町1
電話 0172 (39) 3888 FAX 0172 (39) 3889
Email: equality@hirosaki-u.ac.jp
URL: <http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/equality/>